

たまいたさ川柳



平成28年
3月号 (No.676)

日川協加盟

巻頭言

怒らないとどうする

願法みつる

人間の在り様を仏教的に考えるとき、まず最初の命題は「四苦」であり「八苦」だという。そしてそれを避けられない根源が「五欲」であり「煩惱」であるらしい。煩惱が百八に納まらないことは、誰しもが知ること。そんな心の修行には六波羅蜜やら八正道やら十善戒等が説かれていて。しかし、煩惱を断ち切れない凡の凡たる筆者には、それらのいずれもが、実に難しい深さだ。だから、浅薄な真似事で誤魔化しながら生きている。

そんな中で、せめても叶うもの、これならドウカナと思えるものが閃いた。布施をしる・嘘をつく・悪口を言う・欲張る・憎む・などの綺麗事は、どれも難しい。しかし他人には悟られず、そこそこ有効なもの・「怒らない」としてあると思いついた。

最悪の煩惱とされる「貪瞋痴」の中で、怒り(瞋恚)を抑える努力なら、歳相応にできるのではないか・と。修行の禅僧からは、不遜と言われるかも知れないが。

そう気が付けば、世の中が明るくなる。嘘にまみれた人間関係も、無用な波風を立てずに他人様を静かな眼で観察できそうだ。川柳世界を埒外から眺めることも易々となり、舞台裏も見えてきて愉快である。今年、狼山の中でトライしている、若い猿の擬態なのだが。

日日是好

願法みつる

呆けたかな笑顔がとても柔らかい

慌てない十億土すぐ隣り

古の大和の空を知る鶯

毒性の漢方薬が効いてくる

調味料知って野獣は狂い出す

労働時間厳守して人減ぶ

郊外で降りた帰宅へ陽の高さ

憎しみの言葉が貌を皺にする

女医の膝矢張り女の柔らかさ